Ⅳ-437　伊勢湾口架橋に対する三重県の四離島住民の感応

村上情報開発研究所　正会員　村上　廣
名城大学理工学部　正会員　伊藤政博

１．まえがき

伊勢湾内の三重県側には，４離島（神島・答志島・菅島・坂手島）がある．これらの島は，昭和２８年に制定された「離島振興法」と我が国の高度経済成長に支えられて，今日までかなり公共投資がなされ，離島の漁港および海岸は，整備された．しかし，島と本土との交通体系は，基本的に改善されないままである．瀬戸内海の本四国架橋（児島・坂出ルート）の開通に始まり，平成１１年春には神戸・鳴門ルート，尾道・今治ルートの開通が待たれる．最近，愛知県と三重県の間の伊勢湾口架橋が，にわかに脚光を浴びるようになってきた．そこで，これに先立って，すべての面でかなりの影響を受けると考えられる三重県の４離島の住民が，架橋に対しどのような意識を持っているかを，アンケート調査した．本研究では，その結果に基づいて若干の考察を加える．

２．アンケート調査の概要と解析

1994年8月26日(金)～28(日)の3日間，鳥羽市と名城大学理工学部土木工学科河海工学研究室の４年生の協力を得て，三重県鳥羽市４離島（神島・答志島・菅島・坂手島)の住民にアンケート形式で，聞き取り調査をした．

(1)アンケート

標本数は，４離島で169であった．アンケート回答者の住民総数に対する比率は，図－２に示すように，菅島が4.3%，神島3.6%，坂手島2.9%，答志島2.3%であった．また，島別の回答者の男女比率が，図－3に示してある．また，図－4には，年齢別が示してある．さらに，図－5により島別の職業内容が整理してある．この図から４離島では，漁業就業者が圧倒的に多く，次いで，サービス業，会社員，商工自営，専業主婦の順になっている．図－6には，住民の在住年数が示してある．この図から神島は，他の３島と比べて，一時的に島から出て生活し戻った人が多いことが特色である．したがって，「生まれてから今日まで」と答えた人が他の３島とは，異なり，少ない．

(2)架橋に対する島民意識

4離島を平均すると70%が「架橋を望む」，23%が「望まない」，7%が「分からない」となっている．さらに，図－7には，島ごとに，架橋に対する住民の対応が示してある．この図から，神島が他の３島に比べて，「望む」と答えた比率が少ないことが注目される．この点については，現在アンケートを解析中であり，講

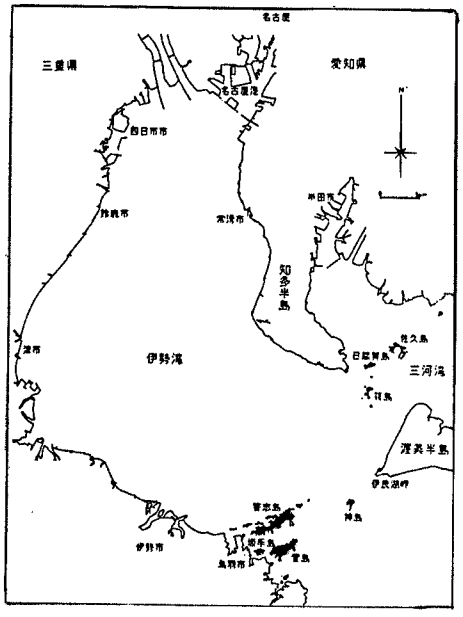
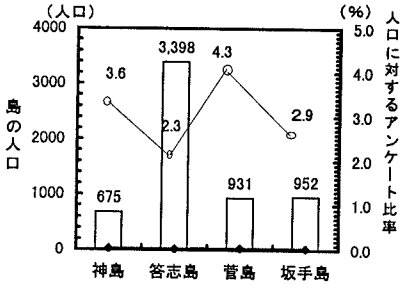
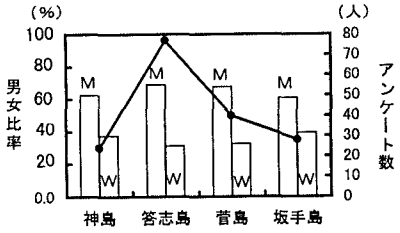


図-1　位置図

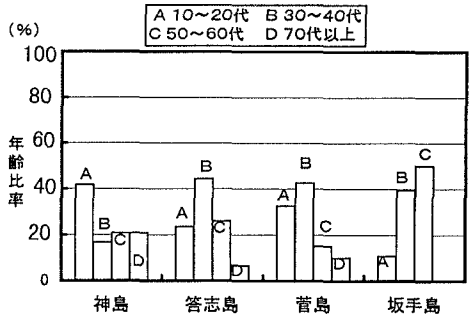


図―2　島総人口に対するアンケート数の率

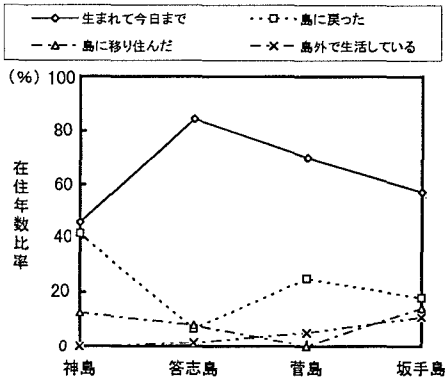
演時にその結果を紹介する．



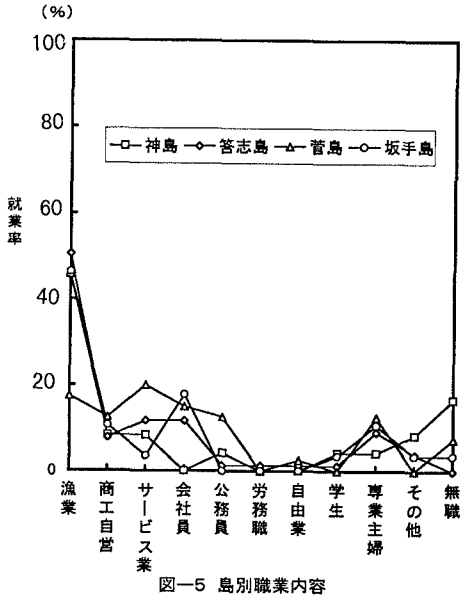
図―3 離島別の男女別比率とアンケート数



図―4 アンケート数の島別年齢



図―6 島別の在住年数



図―5 島別職業内容

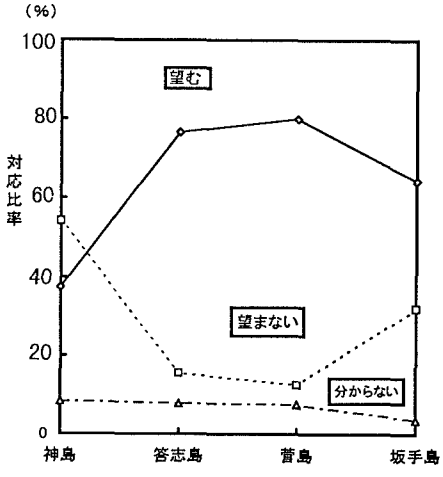
3．まとめ

橋を架けることになれば，神島が基点となり，答志島ルートまたは菅島・坂手島ルートのいずれかになると考えられる．

本調査での回答者数は，４離島の住民の約３％であるが，その中で，「架橋を望んでいる」と回答した住民が70％に達していることが分かった．一方神島では，「架橋を望まない」と答える人が多いことが無視できない．

参考文献

1)全国離島振興協会：離島振興三十年史．
2)(財)日本離島センター：SIMADASU'95.
3)村上　廣・伊藤政博：三重県鳥羽市４離島における漁港整備の経緯と住民の評価；土木学会第50回年次学術講演会講演概要集第2部(B), pp. 842~843. 1995.



図―7 島別の架橋に対する住民の感応